

「介護と医療」 こうなればいいのに意見交換会



滝沢市地域包括支援センター
在宅ボックス滝沢

開催日 平成27年3月25日(水)
場所 滝沢市公民館 視聴覚室

事例報告 施設での急変時の対応

K. Nさん 87才／女性 有料老人ホーム入所中

<病歴>

平成2年 脳梗塞

平成25年 腰椎圧迫骨折

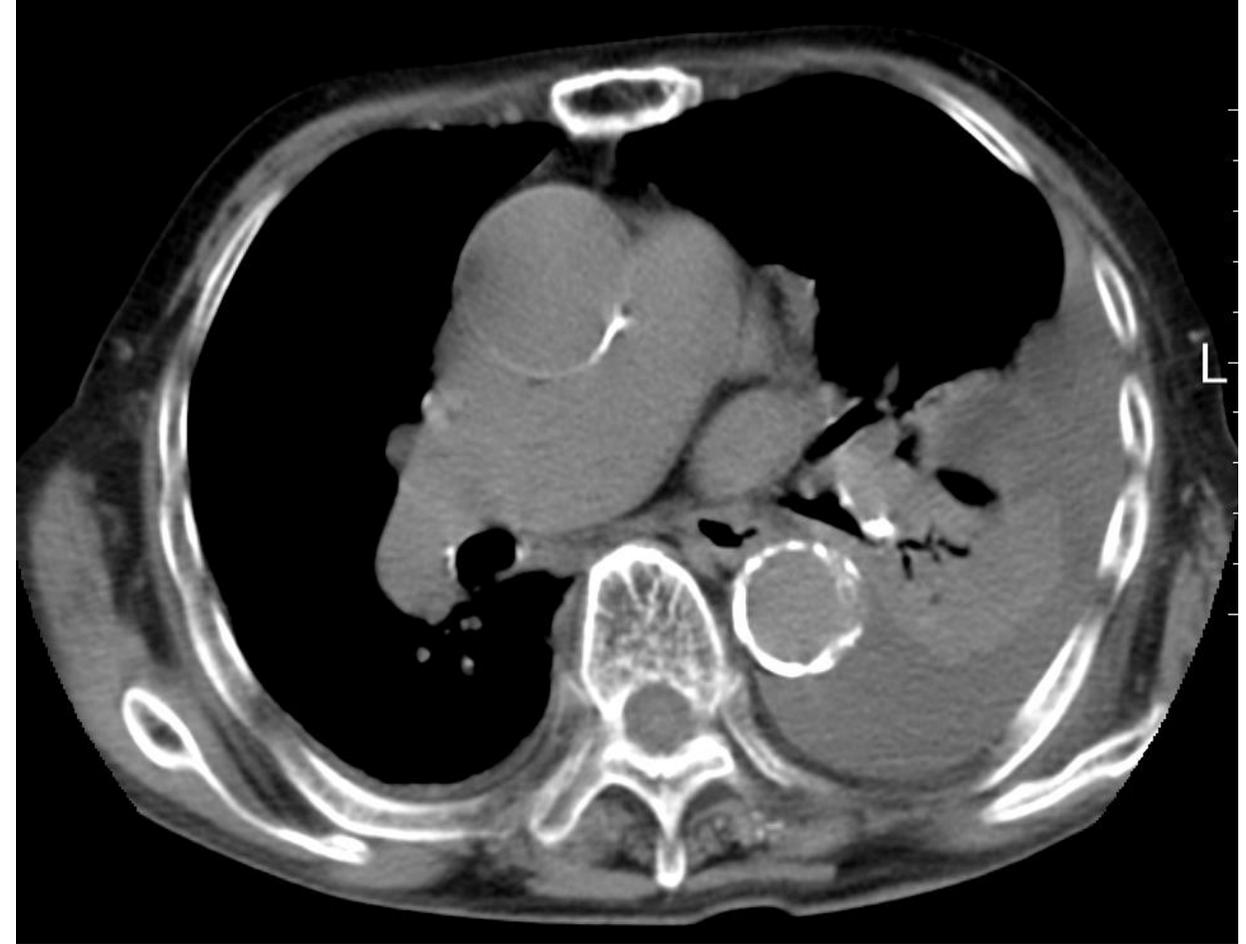
平成26年 右大腿骨転子部骨折 骨粗しょう症

平成27年2月 肺炎 慢性胸水（国立盛岡病院入院）

3月6日 退院

3月9日 急変にて再入院

入院直前の肺炎の状態



在宅ボックスの介入

<経過>

誤嚥性肺炎にて入院治療後、在宅療養へ移行。

月1回の訪問診療と訪問看護を予定していた。

利用中のサービス: 訪問リハビリ 週1回
訪問介護 週1回
デイサービス 週5回

突然の急変・・・その時

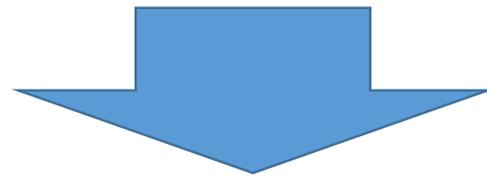
- 11時頃、スタッフが居室を訪室すると眼球上転し、意識がない状態のKさんを見出す。
- 声をかけると、全身硬直がはじまった。
- 当時、現場に担当ケアマネと施設の看護師が外出中。電話で指示を仰ぐも、状態が把握できなかった。
- 結果、施設長の判断で救急車を要請した。

在宅ボックスの介入によって変わること (コーディネートの参加)

- 今までは・・・

急変時の入院先が決まっていない。(搬送先は救急車任せ?)

現場スタッフの大きなストレス



- ボックスを利用することで・・・

施設・在宅医・入院先病院との医療介護情報の提供や共有が可能

急変時の対応について、あらかじめ約束事を決めておく。(家族も含めて)

現場スタッフのストレス軽減

積極的な医療参加によって変わること (医師の立場から)

- 急変時、病院と連携できる医師の確保
- バッグベッドの確保(緊急時や入院希望時の受け入れ先の確保)
- 訪問看護ステーションの利用
 - 症状発現時の対応、健康状態やケアに関する情報交換
- 利用者・家族への治療方針・その他の丁寧な説明。
- 急変時の対応を決めておく。。。話しにくいけど。。。

アンケート結果

医療側へ
施設との連携はありますか？

ケアマネにお願いしている。

ない 20%

ある 80%

N=5

施設側へ
医療機関との連携はありますか？

方法がよくわからないから

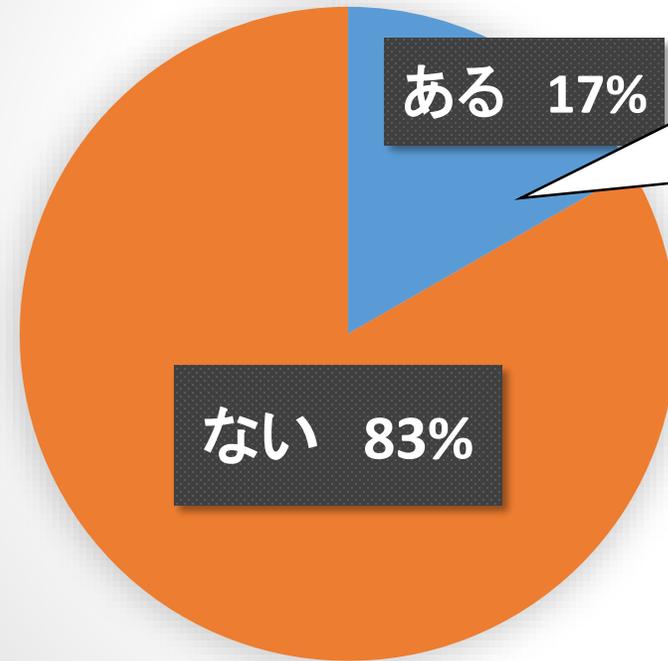
ない 8%

ある 92%

N=13

ほとんどが連携している。

施設側へ 連携について不満はありますか？



- ・指示があいまい。十分な説明がないドクターもいる。
- ・先生が雑で評判が悪いです。

N=13

8割は不満がなし。本当??

困っていること・ジレンマ？

- ① 医療依存度が高い患者様の入院が多いため、各病院の連携室・ケアマネジャーと連絡を取っています。(長期療養型を希望)
- ② 身寄りのない方が入院した際、保証人が必要になるため、成年後見人を立てなければならなかった事例。
- ③ 老健施設と特養等の他施設との違いが医療側の方々に伝わって(浸透して)いないように感じています。(日常の医療の包括、他科受診等)
- ④ 夜間の急変、往診依頼中の方は大丈夫だが、それ以外の場合の連絡先。

知りたい情報

- ① 入所に関する施設基準のようなものがあれば教えていただきたい。
(介護度や経管(経鼻)栄養について)
- ② 病院から施設へ情報提供を行う場合、患者のADL等どのようなことをお伝えできれば良いのか参考までに教えていただきたい。
- ③ 医療と介護が協働して関わることで、本人様のケアがうまく出来ている具体例、どのような関係作りを工夫しているのか知りたいです。
- ④ 市内・訪問診療を行っている医療機関のリストが知りたい。

施設—医療の連携を協議する場が必要

—ご出席ありがとうございました。—